

国語科学習指導案

日時 平成26年5月30日（金）1校時
対象 1年3組（男子20名 女子20名 計40名）
指導者 教諭 岩井千佳子

1 単元（教材）名 お勧めの一冊を選ぼう

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代は情報機器の発達によって、さまざまな方法で情報のやり取りや、人とのつながりをもつことができる社会になってきている。そのような技術の進歩により、私たちはさまざまな恩恵を受けている反面、会話や対話といったような直接的なコミュニケーションの機会が少なくなってきている。また、そのことによって、自分の考えや思いをより適切に表現したり、相手の話を正確に聞き取って、考えや意見を理解したりすることを不得手とする人が増えつつある。

このような状況は中学生も例外ではなく、授業中の発表や話し合いの際に、自分の考えや意見を、相手に伝わるように的確に話すことができなかつたり、相手の考えや意見を尊重し受け入れながら聞き取ったりすることを苦手とする生徒が少なくない。

そこで、相手を納得させるためには、根拠を明確にしながら主張することが大切であることを理解させたい。また、相手の考えや意見の意図をくみ取りながら話を聞いた上で、自分の考えや意見を主張することが大切であることを理解させたい。さらに、「対話」を通して、ものの見方や考え方が広がったり深まったりすることによって、新たな考えが生み出され、価値観が変容することを実感させたいと考えて本単元を設定した。

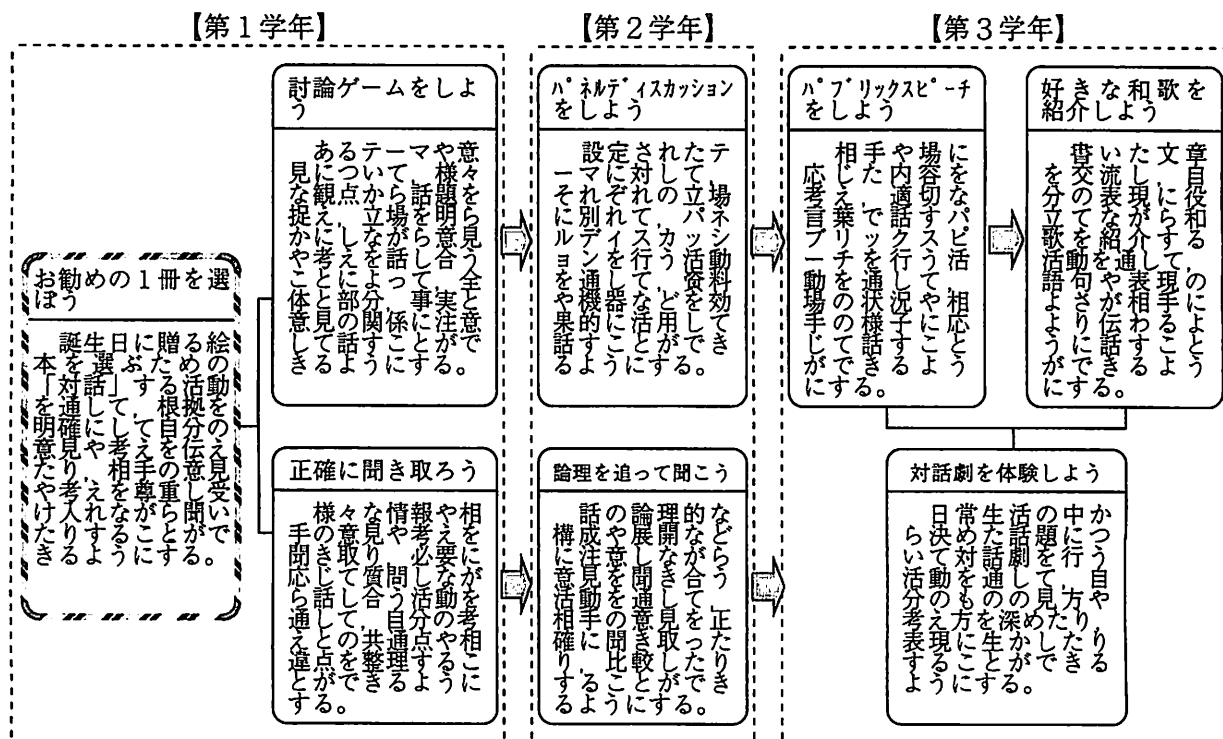
本単元では、両親が娘の誕生日に贈るのにふさわしいお勧めの絵本を紹介することを目標とする。本単元で教材として用いる絵本は、言葉からも絵からも心情や情景などを読み取ることができ、多様な観点から特徴やよさを分析できる教材である。生徒は、それぞれの絵本を比較しながら、絵本を分析し、特徴やよさを捉えることによって、お勧めの1冊にふさわしいものを選ぶことができると考える。

具体的には、まず、個人で絵本の分析を行い、分析して分かったことを全体で共有させる。次に、4冊の絵本を比較し、個からグループ、グループから全体へと学習形態を変えながら、お勧めの1冊によりふさわしいものを選ばせる。そうすることによって、「自己内対話」と「他者との対話」が繰り返し行われると考える。また、「対話」を行うことによって、自分の考えや意見がさらによりものに修正できたことを実感できるようになり、「対話」を行うことへの意識を高めることができるようになる。

このように、意図的に「対話」を起こすことによって、ものの見方や考え方が深まり、新たな考えや意見も生み出され、創造的に思考する力が高まるものと考えられる。

(2) 連関的意義

本単元は、ねらいと教材・学習活動の構成と系統とにおいて以下のような関連をもつ。



3 単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

- 「対話」を行うことによって絵本を選んだり、選んだ1冊についてスピーチを行ったりする活動に積極的に取り組むことができる。
- お勤めの1冊にふさわしい絵本を選ぶための「対話」を通して、自分の考えや意見を話題や方向を捉えて的確に述べることができる。また、自他の考えや意見を比較し、新たな考えに気付いたり、多様な観点で物事を捉えたりするために、相手の考えや意見を尊重し受け入れながら話を聞くことができる。
- 絵本の言葉や絵の一つ一つに着目しながら絵本を分析し、多様な観点から絵本の特徴やよさを捉えることができる。
- 絵本を紹介するためのスピーチを行う活動を通して、音声の働きや仕組みについて関心をもち、理解を深めることができる。

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評価規準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	<ol style="list-style-type: none"> 絵本を進んで分析し、絵本の特徴やよさを捉えようとしている。 絵本を選ぶ活動に進んで参加し、「対話」の話題や方向を捉えて的確に話そうとしたり、相手の発言を注意して聞こうとしたりしている。 選んだ絵本が、お勤めの1冊にふさわしいことが相手に伝わるようにスピーチ原稿を書いたり、工夫しながらスピーチをしようとしていたりしている。 	
話す・聞く能力	<ol style="list-style-type: none"> 4冊の絵本を比較して、お勤めの1冊を選ぶ活動を通して、自他の考えや意見を関連付けながら「対話」を深め、多様な観点から1冊を選んでいる。 お勤めの1冊を紹介するスピーチでは、相手の反応を見て、アクセントやイントネーション、プロミネンスなどに注意しながら話している。 	オ 話し合うこと ウ 話すこと
読む能力	<ol style="list-style-type: none"> 言葉や絵を手がかりにしながら、多様な観点で絵本の特徴やよさを捉えている。 	ウ 文章の解釈
言語についての知識・理解・技能	<ol style="list-style-type: none"> アクセントやイントネーション、間の取り方や強弱などに注意しながらスピーチを行うことを通して、音声の働きや仕組みについて理解している。 	ア 言葉の特徴やきまり

4 単元の指導計画

(1) 単元設定の観点

ア 生徒の実態から

本学級では、話すこと・聞くことの学習において次のような実態が見られる。

- ・ 積極的に発表する生徒は多いが、自分がなぜそう考えたのかという根拠を明確にして発表できない生徒もいる。
- ・ ペアやグループでの話し合いの際には、積極的に発表する生徒は多いが、全体の間では自信がもてず、発表できない生徒もいる。
- ・ 進んで話し合い活動に参加しようとする生徒は多いが、相手の意見を受け入れながら自分の意見と結びつけて発表したり、自分の考えや意見に生かしたりすることを不得意としている生徒が多い。

このような実態から、指導に当たっては、分析の観点や絵本を選ぶための根拠を明確にした上で、絵本の特徴やよさを捉えさせたい。また、積極的に発表ができるように、自分が選んだ絵本とその理由をワークシートにまとめさせ、自分の考えや意見をしっかりとらせるようにしたい。さらに、「対話」を行い、自他の考えや意見を比較することによって、ものの見方や考え方を広げたり深めたりできるようになることを理解させたい。

イ 本校の研究内容との関連から

(ア) 「対話」の活性化の工夫

本時では、「対話」を活性化させるために、「『対話』のゴールの設定並びに根拠の明確化」を手立てとして行う。

具体的には、「両親が女の子の10歳の誕生日に贈る絵本を選ぶ」というゴールを設定し、「対話」を行わせる。このようにゴールを明確にすることによって、誰が誰に絵本を贈るのかという相手意識や何のために絵本を贈るのかという目的が明確になり、よりふさわしい絵本が選べるようになる。また、絵本を選ぶための根拠となる「両親の願い」や「女の子」「10歳」「誕生日プレゼント」などといった状況設定を明確にすることによって、自分の考えや意見をもつことができるようになる。このようにゴールや根拠を明確にすることによって、生徒自身が何に向かって「対話」が行われているかを考え、自分の考えや意見を見直したり修正したりすることができるようになる。また、自他の考えや意見を比較しながら「対話」を行うことによって、ものの見方や考え方も広がり深まると考える。

このことから、「対話」を活性化させることによって、創造的に思考する力が高まるものと考えている。

(イ) 「対話」の深化の工夫

本時では、「対話」を深化させるために、「『対話』を深化させるための場の設定」と「『対話』の力の明確化」を手立てとして行う。

「『対話』を深化させるための場の設定」では、具体的には、まず、自分の考えや意見をしっかりとらせるために、個々で選んだお勧めの1冊について、理由とその根拠をワークシートにまとめさせる。次に、ものの見方や考え方を更に広げるために、個々で選んだ絵本を基にグループで「対話」を行わせる。そうすることによって、自他の考えや意見を比較しながら、お勧めの1冊を選ぶために考えや意見が練り上げられ、よりふさわしいものを選ぶことができる。

また、「対話」を通して、お勧めの1冊を選ぶことによって、多様な観点から思考することができるようになり、ものの見方や考え方も広がりがでてくると考える。さらに、ゴールと根拠に合ったお勧めの1冊を選ばせるために、全体で「対話」を行う。そうすることによって、グループで広がったものの見方や考え方が、ゴールに向かって収束していく。このように、学習形態を変えて、「自己内対話」や「他者との対話」を繰り返すことによって、互いの考えや意見が練り上げられると考える。

『「対話」の力の明確化』では、授業の最後に自由記述と選択肢により、学習を振り返らせる。このように学習を振り返り、生徒自身が自己の変容を自覚し、「対話」の価値を実感することによって、「対話」の力を認識することができる。また、「対話」を行う際に、必要な力を自覚させることによって、「対話」を深化させることができると考える。

このように「対話」を深化させることによって、創造的に思考する力が高まるものと考えられる。

(2) 単元の指導計画 (全6時間)

過程	主な学習活動	時間	指導に当たったの手立て	評価
導 入	1 単元を概観し、学習目標・学習活動を確認する。	0.5	・ お勧めの1冊を紹介するためのスピーチを行うという目標を知らせ、そのためのよりよい方法を学ぶ学習であることを理解させる。	
展	2 多様な観点から絵本を分析し、その絵本の特徴やよさを見つける。	1.5	・ どのような観点で絵本を分析すればよいかを考えさせる。 ・ それぞれの絵本について、言葉と絵の両面から分析させる。 ・ 分析したことがその後の活動につながることを理解させる。	評価基準①⑥ (観察・ワークシート)
	3 分析したことを発表し合い、それぞれの特徴やよさを確認する。 4 分析したことを基に、それぞれがよりふさわしいと思う絵本を1冊選ぶ。	1	・ 分析したことを発表し合い、どのような特徴やよさがあるかを共有させる。 ・ 選ぶための根拠となる「両親の願い」を基に、よりふさわしい1冊を選ばせ、理由とその根拠をまとめさせる。	
開	5 それぞれが選んだ1冊を基に、グループで「対話」を行う。	1 本時	・ それぞれが選んだ1冊を基に、その中からよりふさわしいものをグループで選ばせる。 ・ お勧めの1冊にふさわしい絵本をグループごとに発表させる。 ・ グループの意見を基に全体で「対話」を行い、よりふさわしい1冊を選ばせる。	評価基準②④ (観察・ワークシート)
	6 グループで選んだ中から、よりふさわしい1冊を全体で選ぶ。			
	7 全体で選んだ誕生日に贈るお勧めの1冊を紹介する。	1	・ お勧めの1冊としてふさわしい理由を400字程度でまとめ、分かりやすく伝えるために、話の構成や言葉の使い方工夫させる。 ・ 相手により伝わるように、話す速度や間の取り方、強調したいところに注意させる。	評価基準③⑤⑦ (観察・ワークシート)
終 末	8 学習を振り返り、分かったことや気付いたことをまとめる。	1	・ 学習を振り返り、分かったことや気付いたこと等をワークシートにまとめる。	

5 本時の指導（4/6）

(1) 指導目標

目的を明確にして「対話」を行う活動を通して、自分の考えや意見を主張する際は、理由とその根拠を明確にして分かりやすく伝えることや、相手の考えや意見を受け入れることによって、自分の考えや意見を、よりよく修正することが大切であることを理解させる。

具体的には、主として評価規準④に即して、次の「話すこと・聞くこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	4冊の絵本を比較して、両親の願いである「友達の大切さ」「相手を思いやることの大切さ」がより伝わってくる絵本を選ぶ活動を通して、自他の考えや意見を関連付けながら「対話」を深め、理由とその根拠を明確にした上で、多様な観点からお勧めの1冊を選んでいる。
おおむね達成されている	4冊の絵本を比較して、両親の願いである「友達の大切さ」「相手を思いやることの大切さ」がより伝わってくる絵本を選ぶ活動を通して、自他の考えや意見を比較しながら「対話」を行い、理由とその根拠を明確にしてお勧めの1冊を選んでいる。
達成していない生徒への手立て	あらかじめ分析したそれぞれの絵本のよさと、選ぶ根拠となる両親の願いを照らし合わせることによって、どのような絵本を選べばよいかを考えさせる。

(2) 目標行動（G）

4冊の絵本を比較しながら、「対話」する活動を通して分かったことを、例えば次のようにまとめることができる。

自分の考えや意見を主張するときは、理由とその根拠を明確にし、相手に分かりやすく伝えることが大切であることが分かった。また、相手の考えや意見を尊重し受け入れることによって、自分の考えや意見を、よりよいものに修正できることが分かった。

(3) 下位目標行動

① 本時の学習を振り返り、分かったことや気付いたことを、次のように発表することができる。

- 相手に納得してもらうためには、理由とその根拠を明確にしたり、相手の考えや意見に関連付けたりしながら、発表することが大切であることが分かった。
- 自他の考えや意見を比較し、相手の考えや意見を受け入れながら、反論や質問を行ったり、自分の考えや意見を見直したりすることによって、自分の考えや意見がより深まることが分かった。

② 自他の考えや意見を比較しながら、「対話」を行う活動を通して、お勧めの1冊によりふさわしい絵本を選ぶことができる。

③ グループでまとめたことを基に、お勧めの1冊によりふさわしい絵本について、例えば次のように発表し、全体で更に練り上げることができる。

- 私たちは「おにたのぼうし」が誕生日プレゼントにふさわしいと思います。なぜなら、「貧しい女の子のために何かをしてあげたい。」というおにたの「優しさ」が伝わってくるからです。また、人間のために役に立つことをしたいと思うおにたの「思いやりの気持ち」も伝わってきます。絵は淡い色使いで、柔らかいタッチで描かれています。文章は優しい言葉遣いが多く、内容も分かりやすいので、10歳の女の子が読むのにちょうどいい絵本だと思います。
- 私たちは「ないたあかおに」が誕生日プレゼントにふさわしいと思います。なぜなら、2人のやりとりから「友達の大切さ」が伝わってくるからです。また、あかおにのために悪者になったあかおにの「相手を思いやる気持ち」も伝わってきます。10歳の女の子が「友情」を理解しやすい内容で、絵も文章と合い、情景もよく分かるので、読みやすい絵本だと思います。
- 私たちは「くれよんのくろくん」が誕生日プレゼントにふさわしいと思います。なぜなら、仲間がくろくんのよさに気付き、そのよさを認めたことによって、「個性を尊重」することの大切さが伝わってくるからです。また、仲間がくろくんを受け入れたところから、「友達の大切さ」も伝わってきます。文章はオノマトペが多く幼い感じもしますが、絵の色使いの変化で場面の状況が分かりやすいので、10歳の女の子が誕生日にもらったら、うれしい絵本だと思います。
- 私たちは「しろいやみのはてで」が誕生日プレゼントにふさわしいと思います。なぜなら、全く立場が違う2匹が悩みながらも共に助け合い、互いの存在の大きさを実感しているところから「真の友情」が伝わってくるからです。また、2匹の言動から相手を思いやる気持ちについても、考えさせられます。絵は濃い色が多く使われ、少し暗いイメージがありますが、場面の情景や2匹の表情から気持ちもよく伝わってくるので、10歳の女の子が読むのにふさわしい絵本だと思います。

④ グループで選んだ絵本について、選んだ理由とその根拠を、発表黒板にまとめることができる。

⑤ どの絵本がよりふさわしいかについて、グループで「対話」を行い、お勧めの1冊を選ぶことができる。

⑥R 根拠となるのは、「友達の大切さ」「相手を思いやることの大切さ」という両親の願いであることを確認することができる。

⑦R 本時の活動は、4冊の絵本の中からお勧めの1冊にふさわしい絵本をグループで選び、さらに、全体でよりふさわしい1冊を選ぶ活動であることを確認することができる。

⑧R 本時の学習目標を「女の子の10歳の誕生日に贈る絵本を選ぼう。」であると確認することができる。

(4) 本時の実際

時間	学習過程	指導上の留意点	評価活動
3'	<p>スタート</p> <p>学習目標や学習の流れを確認する。 1</p> <p>(⑧R, ⑦R)</p>	<p><導入></p> <p><学習目標></p> <p>女の子の10歳の誕生日に贈る絵本を選ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時は、4冊の絵本の中から目的に合ったふさわしい絵本をグループで選び、さらに、全体でよりふさわしい1冊を選ぶ活動であることを確認させる。 	
4'	<p>よりふさわしい絵本を選ぶための根拠について確認する。 2</p> <p>(⑥R)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 選ぶ根拠となるのは、「友達の大切さ」「相手を思いやることの大切さ」という両親の願いであることを確認させる。 自分が選んだ絵本について、理由とその根拠を確認させる。 	
15'	<p>グループで「対話」を行い、誕生日に贈るお勧めの1冊として、よりふさわしい絵本を選ぶ。 3</p> <p>(⑤, ④)</p>	<p><展開></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を広げたり深めたりさせるために、グループで「対話」を行わせる。 誕生日に贈る絵本として、よりふさわしい絵本を選ばせるために、グループで理由とその根拠を明確にして「対話」を行わせる。 グループで絵本を選ぶ際には、多様な観点から絵や文章を吟味させる。 グループで意見がまとまらないときは、他のグループと交流させ、自分たちの考えや意見をより客観的に見直させ、深めさせる。 グループの意見を、選んだ理由とその根拠を明確にしてまとめさせる。 <p><達成していない生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> あらかじめ分析したそれぞれの絵本のよさと、選ぶ根拠となる両親の願いを照らし合わせることによって、どのような絵本を選べばよいかを考えさせる。 <p><達成している生徒への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> ふさわしいと思った絵本と選ばなかった絵本の違いについて考えさせ、選ばなかった絵本についても、理由とその根拠を明確にさせる。 	<p>○ グループでの「対話」を通して、自分の考えや意見を広げ、深めることができたか。 (発表・観察)</p>
18'	<p>全体で「対話」を行い、誕生日に贈るお勧めの1冊として、よりふさわしい絵本を決定する。 4</p> <p>(③, ②)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 互いの意見を比較し、他のグループに反論したり、自分が納得できる他者の意見を取り入れさせながら、意見を練り上げさせ、よりふさわしいと思う絵本を選ばせる。 少数数の意見を大切に、その良さを認めさせるようにする。 	<p>○ 全体での「対話」を通して、自分の考えや意見を見直し、よりふさわしい1冊を選ぶことができたか。 (発表・観察)</p>
10'	<p>学習のまとめをする。 5</p> <p>(①)</p> <p>ゴール</p>	<p><終末></p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、「対話」を通して分かったことや気付いたことを、ワークシートに自由記述でまとめさせるとともに、本時で身に付いたと思われる「対話」の力について、自己評価させる。 自分の考えや意見を主張する際には、理由とその根拠を明確にした上で、分かりやすく伝えることが大切であることを理解させる。 互いの考えを見直す際には、よりよいものに修正するために、相手の考えや意見を尊重し受け入れることが大切であることを理解させる。 	<p>○ 「対話」を通して分かったことや気付いたことをまとめ、身に付いたと思われる「対話」の力を確認することができたか。また、自己の変容に気付くことができたか。 (ワークシート・発表)</p>